

住職の妻 自殺歯止めに一役

自殺に向き合う ～いま、私にできること～



住職の妻向けに作られた
自殺対策マニュアル

- × 裁判に「精神を病めまじよう」
- それははなしのきでせよ
- お存ぞですわ
- ～という気持ちで伝わってきますよ
- × 話を遠くしないで「気持ち」を尋ねまじよう
- もっと聞きたい話をしなさい
- そう思えてほしい気持ちをもう少し聞かせてください
- × 共感的理解を示し「私の気持ちを伝えまじよう」
- もう少し頑張ってください
- よく頑張ってきましたね
- 私はあなたのことがか心配です
- × 死んではいけません (一般論、徳信の押し付け)
- 死んでほしくありません (私の気持ち)
- × 安眠剤を服用したりせず「一緒に考えまじよう」
- さっと大丈夫です
- そのうち良くなりま...

浄土真宗本願寺派 (本山・西本願寺、京都市)の東京教区教務所が、檀家と気軽な関係にある坊守(住職の妻)向けに自殺対策のマニュアルを作成し、彼岸に合わせて関東地区の全464カ寺に配布した。仏教界でも自殺対策は重要な課題だが、「命を粗末にする行為」と教条的にとらえる住職がまだ多く、おろかな立場で向き合える妻に期待した珍しい取り組みだ。

同派が08年に全国約

浄土真宗本願寺派

対策マニュアル作成

1方の末寺に実施したアンケートでは「自殺は仏教の教えに反するか」との質問に対し、「そう思う」(約60%)と「やや思う」(約14%)で4分の3を占めた。一方、同教務所が住職の妻に行った聞き取り調査では「言にくい悩みは住職よりも妻に相談してくる」との傾向が明らかになった。「就職が難しいと電話をかけてきた20代の男性が次の日に自殺した」「夜中に突然『お経を習いたい』と電話

してきた70代の男性が翌日自殺した」などの体験談も妻たちから寄せられ、「どう対応すべきか知りたい」との要望が出ていた。「自殺に向き合う」と題されたマニュアルは、自殺の兆候として「墓石の前に長い時間とどまる」「滞納していた会費を突然まとめて納入する」などを例示。死にたいと思いつめている人や遺族への声のかけ方として、「気にしすぎ」と話をそらしたり「そろそろ元気を出したらどうか」と無責任に励ましたりせず、「どんな気持ちなのか聞かせてください」と正面から受け止めるようアドバイスしている。

【丹野恒一】